

[担当部署]	武蔵野市環境部緑のまち推進課
[募集テーマ]	武蔵野市緑の基本計画（案）
フリガナ [氏名]	（企業・団体の場合は、企業・団体名、部署名および担当者名） 高木敦子
[住所]	武蔵野市吉祥寺本町1-37-7
[電話番号]	0422-21-7715 090-6009-9650
[ファックス番号]	0422-21-7715
[Eメールアドレス]	atuko-t@qf6.so-net.ne.jp
[ご意見]	<p>1 雑木林、境山野緑地（独歩の森）は、武蔵野市の格別な存在であり、この度の緑の基本計画において雑木林の保全・更新計画を示すべきであると考えていますので、以下の通り意見を提出します。</p> <p>なお、2018年9月にNPO法人市民まちづくり会議・むさし作成による報告書「武蔵野市の雑木林の現状と課題」が出されています。この報告書に、境山野緑地の歴史的文化的価値や生物多様性に富んだ武蔵野市にとって格別の場所であること、2008年緑の基本計画が実行されていなかったため、その保全・更新が遅れている状況であること、2018年には、倒壊のおそれがあるとして枯損木15本が伐採されたこと等が報告されています。境山野緑地は70年以上萌芽更新されず、このまま手をこまねいては、次々に老木化していくばかりで、保全すら出来ないこととなります。境山野緑地の価値について、この度の緑の基本計画において再確認するとともに、保全と更新に着手する必要があります。私はNPO法人市民まちづくり会議・むさしの会員ではありませんが、上記報告書を委員の方にもぜひご一読願いたいと存じます。</p> <p>（1）第1章、1、武蔵野市の緑に関するこれまでの経緯の記述について ここに、「雑木林」が記述されていません。「雑木林」は、形式的に樹林に含まれるということでしょうか。しかし、雑木林は、武蔵野ならではの歴史や文化、生物多様性のある集合体として価値がある格別な存在です。境山野緑地（独歩の森）は、市の代表的な緑として各種パンフレットに掲載されています。市内に唯一残された雑木林として境山野緑地の雑木林を保全・更新していくことは、武蔵野市にとって大きな課題であり、雑木林を明記すべきです。</p> <p>（2）第1章、3（2）について 緑の定義に、雑木林を個別に記述すべきです。 緑の役割の「地域の歴史の継承」に雑木林も加えるべきです。</p> <p>（3）第1章、4（2）歴史の面影を残す緑について 境山野緑地の自然環境は、本来生物多様性に富むものである旨の記述を追加して</p>

いただきたい。

(4) 第2章、1、(2)。2) 緑を再生させるについて

境山野緑地については、2008の計画が進んでいないこと、保全・更新を急ぎ要する状態であることを記述すべきです。

(5) 第2章、2(2)、公園緑地、街路樹、学校の緑などの管理について

境山野緑地の高木化、光の入らない暗い林になっていること、林床の裸地化などの憂える現状を認識し、意見の集約を急ぎ、保全と更新方法を決定し、着手する必要がある旨の記述にすべきです。

(6) 第3章、2、(2)、基本施策と個別施策について

基本施策－2 個別施策 ②水と緑の軸・緑の拠点の継承

「境山野緑地などの樹林の保全方法について引き続きの検討」との記述は反対です。これから更に10年間検討していたのでは、境山野緑地は保全も出来ず、更新の機会も失ってしまいます。「検討を急ぎ、保全と更新に着手する」とするべきです。

2 「武蔵野市緑の憲章」が冒頭に掲げられ、武蔵野市の緑の施策の基本であることが確認されていることは大変良いと思います。

3 第1章2 緑をとりまく社会背景と主な動向については、財政的な制約が強調され過ぎていように思います。

都市化が進み地価の高い武蔵野市にあって、土地を取得して公園化することが難しいことは分かりますが、緑のまちづくりは、都市化した武蔵野市であるからこそ大切なのです。長期計画の1つの柱になる重要な計画であり、相当な財政の投入は必要ですし、防災機能も併せた、ゆとりある緑の空間を創出するのはよいことです。

なお、上記報告書は別に郵送させていただきます。以上です。

※お寄せいただいたご意見は、整理したうえで公表いたします。ただし、個々のご意見には直接回答はいたしませんので、あらかじめご了承ください。